

令和5年度 地域学校協働活動活動報告

事業内容	課題の詳細	課題解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	目標値 本年度の	実績値 本年度の	アウトカムの達成度に関する評価・分析(※1) (本事業における成果、課題、改善点等)	
放課後子ども教室(平日)	継続的な地域協働活動の推進	モデル教室にて以下を試行する。放課後子ども教室から地域社会へ関わりを深め、地域社会と放課後子ども教室が連携・協働していく。	放課後子ども教室スタッフが地域コミュニティ委員会に参加し新たなネットワークを構築。地域コミュニティに参加いただきグランドゴルフを通常的に実施する。	実施回数	5	回	6回以上	7回	4	<p>【本事業における成果】 令和4年度から地域コミュニティ委員会との協働活動について検討し、単発的な活動(グランドゴルフ)を開始。参加児童の評価が大変高く、令和5年度においても石戸小放課後子ども教室で、定期カリキュラムとして組み込むこととなった。継続的な地域協働活動の推進を達成したと言える。</p> <p>【工夫した点】 単に活動を行うのではなく、参加児童と地域住民の両者にとって意義ある活動とすることが目標の達成を図る上で重要となる為、内容の充実度についても細かく検証し、検証結果を会員の方と共有した。結果的に、手づくりの子ども用クラブを寄贈いただき、参加児童から高く評価される活動となった。地域住民にとっても“健康増進”や“子どもから元気をもらえる”と、両者にとって充実度の高い活動となっている。</p>
放課後子ども教室(土曜日教育支援)	貧困家庭の生徒の学習意欲の低下、学校以外で学ぶ機会の減少が課題となっており、一人一人の学習のつまずきを支援する時間や場が限られている。	サポートスタッフ(教職員・外部学習支援ボランティア)による学習支援活動を年8回程度実施し、参加児童生徒の学習のつまずきを把握し、個別支援を行う。	学校の授業以外で日常的に学習を行う児童生徒が増える。	予算に対する実施総回数と実施回数との割合	89	%	90	75	2	アフターコロナの中で、実際に集合型の学習に参加する児童生徒が増えた一方で、インフルエンザやコロナウイルス感染等の流行が年間を通して散発したため、感染拡大を防ぐための学級閉鎖等の対応をとったことから、予定していた実施回数を下回ったところがあった。来年度に向け日程変更を視野に入れた計画立てを検討する。
学校応援団推進事業	教員の業務負担による時間外勤務の増加	学校応援団の活動で、「安心・安全確保への支援」や「学校の環境整備への支援」に重点を置き、活動実日数を増やす。	地域との協働が進み、教員の業務負担が減少する。	学校応援団の活動実日数(「学校応援団」の推進に係る調査)	1234	日	1300	1267	2	目標値の達成に至らなかった要因としては、中学校での活動日数が少ないことが挙げられる。登下校時のあいさつ運動への参加や放課後及び長期休業中の補習等についても学校応援団の活用を進めていく。

(※1) アウトカムの達成度(課題の解決・改善の進捗度)を、5段階で自己評価したもの。

5: 本年度の目標値を大きく上回り、設定していた課題が解決した 4: 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた 3: 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた

2: 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 1: 本年度の目標値を大きく下回り、取組の根本的な見直し求められる